

令和6年度 大阪府泉州在宅医療懇話会における主な意見(概要)

開催日: 令和6年 11 月 14 日(木) 場所: 泉南府民センタービル 1 階 多目的ホール

1 泉州圏域における連携の拠点等の取組状況について

意見なし

2 各圏域で議題にした内容に関する意見

【ACP 推進に向けた取組みについて】

- 泉州南消防組合は医療ケアに関する情報共有シート(以下、「共有シート」とする)の活用状況を確認するためアンケートを実施した。結果、8名の救急隊長が、高齢者施設から共有シートの活用ありと回答した。また、活用症例数は20症例以上であり、6割以上の救急隊長が共有シートの有用性を認めた。
- 泉州救命救急センターでは共有シートを持って搬送された患者は1例のみだが、救急車を呼ばずに看取りとなった患者が増えている可能性もあるため、共有シートの事例が少ないことが悪いことではない。
- 泉佐野泉南医師会では医療介護連携推進事業の一環として介護保険施設情報交換会を年2回開催し、高齢者施設間の関係構築を図っている。その会議には救急隊も参加し、ACP推進に向けた関係構築への一歩となっているため、他地域でも救急隊とのつながりを強化すると良いのではないかと。

3 その他

- 高齢者施設はマンパワーがなく、ACPを進めていくことは困難である。ACPの推進には診療報酬による手当等が必要である。
- 高齢者施設でのACP推進には、家族にもACPIについて理解してもらう必要がある。
- 現在、メディカルコントロール協議会で心肺停止患者の対応に関するプロトコルを作成中だが、一方で看取りを希望する方には訪問看護師と在宅医が連携した在宅看取りの体制作りを進めていくことも重要である。